

おだがいさま

odagaisama

第 45 号
平成 25 年
3 月 15 日発行

もうすぐ 一年生!!

みんな みんな ありがとう



くしびき南部保育園で1日、お世話になった方々をご招待し、感謝の気持ちを込めた「ありがとうパーティ」が開催されました。

「ほくね、玉子焼き食べられなかったんだよ。でも、今は大好き♡」「さくらんぼ狩りも柚子狩りも楽しかったよ。」と話す園児たちに、調理師さんや地域の皆さんの顔もほころびます。

今年度、同保育園を巣立つ年長児は11人。24日の卒園式を前にお世話になった方々と鬼ごっこやフラフープ等をして楽しい時間を過ごしました。

地域みんなに見守られて大きくなった子ども達。元気いっぱい的一年生になってね!!

特集

東日本大震災避難者への支援活動



山大農学部学生ボランティアによる
避難者宅の除雪支援活動

今も300人を超える方が 鶴岡市に避難

鶴岡市の避難者数 338人

- 福島県 248人
- 宮城県 86人
- 岩手県 4人

※平成25年2月末現在
鶴岡市防災安全課「鶴岡市避難者受入れ登録者数」より

困っていること・支援として期待するもの

山形県は、昨年10月に県内へ避難している方々にアンケートを実施し、避難生活が長期化する中でどのようなニーズを持っているか、どのような支援を望んでいるかを調査しました。

東日本大震災 避難者 アンケート調査

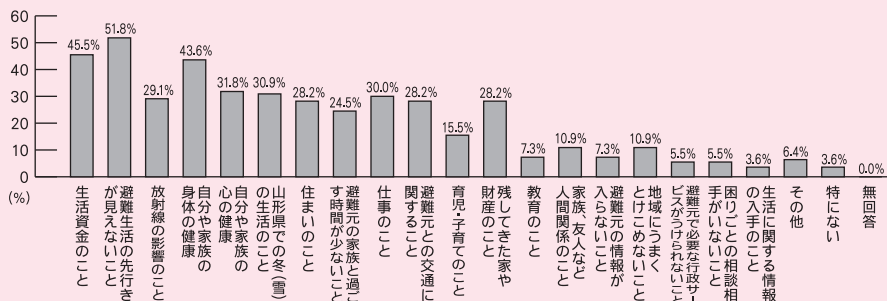
調査地域 山形県全域
調査対象 東日本大震災により山形県内に
避難されている3,855世帯
調査期間 平成24年10月10日～22日
集計集 1,275件(回収率33.1%)
平成24年12月 山形県広域支援対策本部避難者支援班調べ

《地域別回答数》

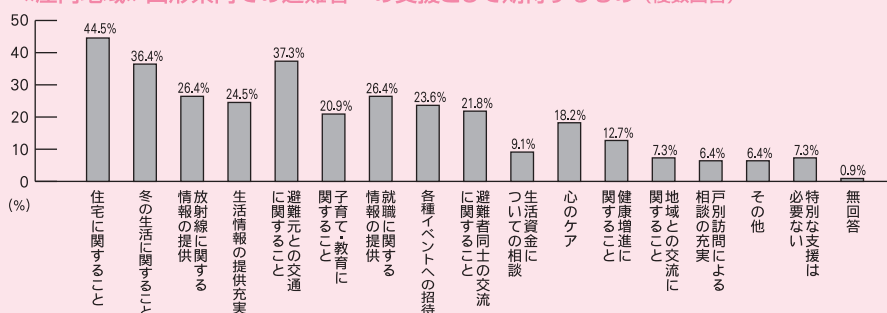
村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	不明	合計
650件	25件	422件	110件	68件	1,275件

避難している市町村・酒田市 49.1%・鶴岡市 43.6%・遊佐町 3.6%・その他 3.6%

《庄内地域》困っていること、不安なこと（複数回答）



《庄内地域》山形県内での避難者への支援として期待するもの（複数回答）



2011年3月11日に発生した東日本大震災から2年が経過しました。これまで、鶴岡市社会福祉協議会は、市民の方々と被災地でのボランティア活動を行ってきましたが、同時に、被災地から鶴岡市へ避難されている方々への支援活動にも取り組んできました。2年が経過した今も、鶴岡市に定住するか、故郷へ戻るか、戻れる日がくるのか、心揺れる避難者の方がたくさんいます。同じ地域に暮らす住民として、どんな支援ができるのでしょうか。

避難者の声



福島県南相馬市から避難
木幡 昭子さん

早いものです。あの震災から二年の月日が流れました。原発事故さえなかったら、私の郷里は復旧できたはずなのに・・・と今も思えばかりです。

あの日、避難所には情報が一切無く、弟からの電話で原発事故を知りました。避難場所として思い浮かんだのが、曾祖父の時代から出羽三山参拝でお世話になっている羽黒町手向の宿坊でした。鶴岡では多くの方々に助けをいただき、今は雇用促進住宅で生活しています。

先日、おばの納骨で久しぶりにふる里（福島県南相馬市小高区）へ帰りました。まだまだ復興にはほど遠い状況ですが、前向きに行動し、ふる里へ帰れる日まで鶴岡で頑張りたいと思います。

避難者に寄り添った支援 ―生活支援相談員の取り組み―

平成24年度、山形県社会福祉協議会は、避難者の孤立を防ぐと県内の8市町村社会福祉協議会に24名の生活支援相談員を配置しました。被災地以外に生活支援相談員が設置されたのは初めてのことで、鶴岡市社会福祉協議会には、現在、生活支援相談員が1名(平成25年2月末現在)配置され、行政や関係団体と連携しながら情報提供やサロン・交流事業、戸別訪問、相談対応等の支援活動を行っています。

●地元の情報を毎週発信

慣れない土地での生活のため、避難者の方々は暮らしに必要な情報(病院、インターネットの閲覧が可能な場所、雪対策等)が不足していました。そこでまず始めたのが「鶴岡市避難者だより」の発行です。平成23年11月から毎週発行し、鶴岡市のご協力により、今も避難されている全世帯へと届けられています。発行当初は、生活の仕方について多く取り上げてきましたが、最近ではリフレッシュや健康づくり等についても取り上げ、時間の経過とともに紙面内容も変化しています。

これまで発行した「鶴岡市避難者だより」は、鶴岡市社会福祉協議会ホームページからもご覧いただけます。

●その方にあつた交流の場づくり

情報発信の次に取り組んだのが、交流の場づくりでした。以前は、交流に消極的な方が多くいましたが、震災から1年を過ぎた頃から「同じ悩みをもつ避難者同士で会って話したい」という声が出てきました。そこで、最初に始めたのが「編み物教室」でした。福島県で編み物教室を開いていた木幡昭子さんにご指導いただき、避難者の方が多く入居している雇用促進住宅の集会所で毎週金曜日に開催しています。昨



編み物教室



もちつき交流会

年秋からは、男性限定の「避難おやじのつどい」や子育て世

代を対象にした「避難ママのつどい」など不定期に開催しています。

また、避難者同士の交流だけでなく、鶴岡の郷土料理を学ぶ「料理教室」や「芋煮会」「もちつき交流会」を開催し、地元の方々との交流機会も設けています。

避難者の方が抱える問題は、健康問題、家庭の不和、不登校、経済問題等、徐々に地域と共通の問題が目立ってきました。避難者の方は、同時に多数の問題を抱え短時間で深刻な状況になりやすい傾向にあるため、これからも、地域や支援団体、関係機関等と連携協力し、問題解決のお手伝いや避難者の方に寄り添った支援が必要とされています。

被災地支援活動も継続しています

がれき撤去やイベント事業(「だだちゃ豆を食う会」「そば祭り」「観桜会」)等での交流を深めてきた宮城県南三陸町歌津地区「平成の森仮設住宅自治会」より、震災で出たがれき木材を利用した感謝状をいただきました。



写真は震災直後から被災地支援活動を行っているボランティア活動者の一人である粕谷政雄さん

鶴岡にいつでも来れる「家」を

―「フクシマの子どもの未来を守る家」の取り組み―

市内で避難者支援の活動をしている団体をご紹介します。代表を務める高橋さんは、平成23年6月から鶴岡市の自宅を疎開先として登録し、原発事故により放射能に苦しむ母子の受け入れを行ってきました。そして、県外に引っ越すことはできないけれど「放射能から子どもを守りたい」「子どもを外で遊ばせたい」と願う家族が、一時的にでも「普通の生活」を送ることができるようにしたいとの思いで、鶴岡市内に「フクシマの子どもの未来を守る家(以下「守る家」)」を誕生させました。

「守る家」は、現在、市内に5軒(平成25年3月末現在)あり、すべて「被災された方々の役に立つのなら」と鶴岡市民の方が無償で貸し出してくれた空き家です。家には、食べ物以外の生活用品がそろっており、地元のサポーターが、情報提供やゴミ出しなどの日常生活を支援してくれています。「守る家」は1軒を2世帯で利用します。これまで、のべ75世帯(子ども163人)が「守る家」を利用しました。

使用期間:1泊から1ヶ月まで
料 金:1泊または1日
500円

※11月から4月は暖房費として300円加算

問合せ先 「フクシマの子どもの未来を守る家」事務局
☎080-6023-7490



「フクシマの子どもの未来を守る家」代表 高橋裕子さん(写真右)とサポーターのみなさん

ご協力ありがとうございました



今年度の共同募金運動は昨年10月1日より全国一斉に実施され、鶴岡市においても市民の皆さまをはじめ、事業所、団体、学校など、多くの方々のご理解とご協力のもと大きな善意をいただくことができました。心より厚くお礼申し上げます。

今年度の募金実績額とその使いみちについてお知らせいたします。



募金実績総額

21,642,605円

戸別募金

各町内会、自治会、区長会、駐在員を通じ、各世帯からご協力いただきました。

17,200,132円

学校募金

ドラえもん募金箱を通して各小、中、高校よりご協力いただきました。

751,194円



法人募金

市内702件の法人、事業所、商店などからご寄付をいただきました。

1,422,933円

イベント募金

社交ダンスパーティー、ゲートボール大会などチャリティーイベントを開催していただき、ご寄付をいただきました。

125,202円

職域募金

市役所、市社協職員よりご協力いただきご寄付をいただきました。

1,047,961円



街頭募金

民生児童委員、高校生、ボーイスカウトなどの方々からご協力いただきました。

186,526円



その他

スタンド式募金箱や趣味サークルなどからご協力いただきました。

908,657円

～じぶんの町をよくするしくみ～



募金の使われ方

- ★県内全域の社会福祉施設、団体、NPO法人などを対象に平成25年度に行う福祉事業や施設整備、学童保育所などの支援のために使われます。
- ★高齢者等のお茶のみサロン活動や見守り支え合い活動など地域で行う福祉活動への支援のために社会福祉協議会に配分されます。
- ★鶴岡市内の経済的に支援を必要としている世帯や児童養護施設の入所児童・生徒が安心して新たな年を迎えられるように昨年末に義援金をお届けしました。

感謝の言葉をご紹介します

これまでに赤い羽根募金を使って事業を行った福祉団体からありがとうメッセージが届きましたので、その一部をご紹介します。



NPO法人 いなほ作業所

新しいミシンをもらってありがとうございます。さっそくつかわせてもらいました。自動でミシンがすすみます。

竹炭いれの袋作りをしています。みんなでこうたいでつかっています。

募金ありがとうございます。



愛光園

赤い羽根共同募金に寄付をいただきありがとうございました。当園には、就労のためにまた自立するために利用者の方々が毎日通ってくるのですが、バス等の公共交通機関の便数が減り、自分だけでは通所したくてもできない現状であり、当園では送迎サービスを行っています。

今回、皆様方からいただいた貴重なご寄付により送迎車1台を購入することができました。大切につかわせていただきます。誠にありがとうございます。



鶴岡市ボランティア連絡協議会

鶴岡市は、市町村合併が行われたことにより広域化し、それまで行われていたボランティア研修等の機会が少なくなっていました。昨年に続き鶴岡市全域の方を対象にした「ボランティア交流会」を旧市町村のボランティア団体の方と内容を一緒に企画し実践することができました。

また、昨年は東日本大震災発生後、庄内からも多くの方が現地でボランティア活動を実践したが、その活動を振り返ることなく、活動に追われている現状がありました。広げようボランティアの輪の中で、神戸社協の方を講師に迎え支援活動の振り返りと今後の活動を学ぶ場を設けました。

鶴岡市はもちろん、庄内全域の中でボランティア研修等の継続を今後も実施していきたいと思えます。これからもご支援よろしくお願いします。



藤島福祉センター

高齢者や障がい者が一緒に楽しむ機会が少ない昨今において、山形県共同募金会からの共同募金の配分により、高齢者や障がい者が一緒になってグラウンド・ゴルフを楽しむことができました。

障がい者は勿論のこと、最高齢で88歳の参加者もあり、様々な障壁を感じさせない大会となりました。

このような機会を設けることができたのも、共同募金に協力をしてくれた皆様のおかげであることに深く感謝を申し上げます。



i 情報掲示板

平成25年度「ふれあい福祉相談」のご案内

●常設相談

失業や病気などで一時的に生活の維持が困難となった世帯に対する貸付相談や、判断能力に不安がある方への日常的な金銭管理(福祉サービス利用援助事業)等の相談に、職員が応じています。

日 時：月～金曜日(祝祭日を除く)午前8時30分～午後5時15分
場 所：各福祉センター

●巡回弁護士相談(無料・要予約)

毎月1回、各センター持ち回りで開催しています。予約は開催日の1ヶ月前から受付となります。

4月17日(水)鶴岡福祉センター 10月16日(水)朝日福祉センター
5月15日(水)鶴岡福祉センター 11月20日(水)鶴引福祉センター
6月19日(水)鶴岡福祉センター 12月18日(水)鶴岡福祉センター
7月17日(水)藤島福祉センター 1月22日(水)鶴岡福祉センター
8月21日(水)羽黒福祉センター 2月19日(水)鶴岡福祉センター
9月18日(水)温海福祉センター 3月19日(水)鶴岡福祉センター
※日時・会場変更の場合は別途広報「つるおか」でお知らせします

まず来ばいちゃ つるおか市民活動まつり

市内で活動するボランティア団体や市民活動団体が企画し作る楽しいイベントです。どなたでもお気軽にご来場下さい。

●日 時

平成25年3月24日(日)
午前10時00分～午後3時00分

●会 場

鶴岡市総合保健福祉センター
にご♥ふる・第三コミセン

●内 容

活動紹介コーナー、出店ブース、フリーマーケット、ステージイベント、学びと体験コーナー等

●お問合せ

鶴岡市ボランティアセンター
☎23-2970

🙏 ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成24年12月21日から～平成25年2月20日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センター

・遠藤 研一 様 8,979円
・由良GGクラブ 様 10,000円

◎藤島福祉センター

・須貝 實 様
下着16枚、タオル59枚、紙おむつ34枚

◎羽黒福祉センター

・匿名 51,945円
・羽黒中学校生徒会 様 7,000円
・三山大愛教会 神林千祥 様 300,000円
・村上 しんご(眞吾) 様 CD1枚

◎鶴引福祉センター

・川上 豊子 様 信楽焼の花瓶・台

・佐藤 正男 様 12,538円

◎温海福祉センター

・しゃりん 様 30,000円
・本間 とく 様 50,000円

★地域福祉センターなえつへ

・株産直あぐり 様 りんご3箱

★高齢者福祉センターおおよまへ

・大山小学校 様 12,000円
・稲泉 眞彦 様 1,000,000円

★デイサービスセンターおおよまへ

・長谷川 浩一 様 甘酒30升

★くしききデイサービスセンターへ

・株産直あぐり 様 りんご3箱
・工藤 七三郎 様 手作り門松

★温海デイサービスセンター愛寿園へ

・齋藤敏子・久雄 様 25,000円

★鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるまへ

・100キロマラソンASSO 様 28,865円
・成澤農園 様 リンゴ10箱
・株産直あぐり 様 リンゴ3箱
・マックスバリュ 様 クリスマスプレゼント
・スマイルサンタ 様 クリスマスケーキ7箱

★もみじが丘へ

・温海地域女性団体連絡協議会 様 20,000円
・日々喜商店 様 ジュース7本

★震災等支援事業へ

・真如苑 様 20,000円

平成4年、当時14才で金メダルに輝いた岩崎恭子選手を覚えてますか。では昨年、銀メダルに輝いた34才の澤穂希選手は記憶に新しいのではないのでしょうか。実は、このお二人が同じ年だということを先日研修会で自閉症当事者から聞きました。彼は、成績は上位でしたが、こだわりが強く、また場の空気がよめずクラスでは浮いた存在だったそうです。卒業はできたものの就職につまずきました。しかし、彼は多くの人々から助言を受け、時間をかけ自身の考え方を直すことや弱点を改善しようとする工夫を見つけた工夫をして見事就職したそうです。14才で花開く人もいれば34才の人もいます。一人ひとりのペースを大切に出来る広く大きな心を持ちたいものです。

(Y・S)

一人ひとりのペース

ほつと「ラム

東日本大震災 震災ボランティア登録受付中!! 申込み/問合せ 鶴岡市ボランティアセンター ☎23-2970

おだがいさま

第45号

平成25年3月15日発行

発行部数 49,500部



編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会

鶴岡市泉町5番30号

TEL 24-0053 FAX 23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター TEL 24-0053

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

鶴引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-3266

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。